

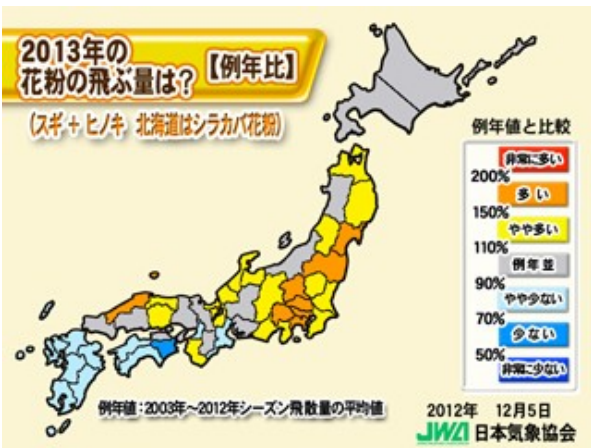
今春のスギ花粉は多い！？

これからの季節、出かける時に気になるのはスギ花粉で

はないでしょうか。来月（2月）中旬には、九州・四国や、中国・近畿・東海・関東地方でスギ花粉が飛び始める見込みです。北陸や東北地方も2月下旬には飛び始めるところがあるでしょう。

今春の花粉シーズンの特徴は、花粉の飛ぶ量が多くなることです。日本気象協会の花粉飛散予測では、中国地方から北海道にかけては例年並みか例年より多く、とくに関東地方は例年のおよそ1.5倍になる見込みです。

昨シーズンに比べると、関東や東北地方は3倍と非常に多くなるでしょう。



これは昨夏の猛暑の影響でスギの花芽が多くなるためです。一方、昨夏に雨の多かった九州や四国地方では花粉は少ない見込みです。

日本気象協会では、花粉シーズン中は毎日の飛散予測を天気総合ポータルサイト「tenki.jp（http://tenki.jp）」と携帯公式サイト「気象協会晴曇雨」で提供します。花粉対策に日本気象協会の花粉予測をご活用いただき、花粉シーズン中のお出かけも、お楽しみ下さい。

日本気象協会

小田 美穂

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公開していません)

理事長：大島慎子(筑波学院大学学長)
顧問：丹羽 晟(元理事長、日本空港ビルデング顧問)
副理事長：岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(元JALUX特別顧問)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)、加納隆(元朝日新聞経済部記者)
事務局長：杉行夫(理事)、事務局次長：堤るり(理事)
支部長：片山文彦(新宿)、魚住隆彰(北陸)、麓理沙(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、

【団体会員】(2013年01月28日現在)

AGC硝子建材エンジニアリング(株)、(株)朝日ネット、(有)青葉、(株)アドルックス、(株)アルビオン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、イーエムティー(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、富山県射水市、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)えんれいしゃ、(財)NHKインターナショナル、NPO「江戸城再建を目指す会」、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急電鉄(株)、小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚食品、環境テクノス(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(社)くらしのリサーチセンター、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマサバサジャパンリミテッド、三協立山(株)、三普旅行社有限公司、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、(株)センインターナショナル、常興興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成有楽不動産(株)、大成設備(株)大成ロテック(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、TCTレーディング(株)、(株)哲建、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、医療法人社団同友会、トヨーカッツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オース・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、専門学校日本ホテルスクール、(株)ニューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、羽田旅客サービス(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロクジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、ブネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルモロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマルックス、マイナホールディングス(株)、(株)まるまんファイナール、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

編集後記

「JAPAN as NO1」とエズラ・ボーゲルに持ち上げられたのは、1979年のこと。GDP（国内総生産）世界2位、一人当たり所得も上位、まさに「陽が昇る」勢이었다。その後、カネにあかしてニューヨークの伝統ある建物を買ったり、自動車摩擦で米国の自動車業界を痛めつけ（？）たりして、「JAPAN bashing」（日本叩き）が話題となる。その後、失われた20年と言われる日本経済の沈滞が続き、世界における日本の存在が相対的に縮小、こんどは「JAPAN passing」（日本外し、日本無視）の状況に。そして、GDPは中国に抜かれ世界3位、「JAPAN Nothing」とまで酷評され、いまや「JAPAN falling、KOREA and CHINA rising」というのが、世界の共通認識のよう。英エコノミストは、特集「2050年の世界」で、国民一人当たりのGDPが、日本は韓国の55%程度になるとまで予測している。

このように世界の中での日本の位置が下がっていく一方だが、その原因の一つが、国際社会における日本のPR不足だとする指摘がある。私たちとしては、海外から観光客を積極的に招き、なお残る日本の良さを知ってもらい、「国力は弱くなったけれども、尊敬される存在」でありたいと思う。わがJN協会としても、微力ながら努力を続けたいものである。(加納)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW 観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第87号 発行日2013年01月28日

Contents

JN協会、2013年の活動方針	1
新年の挨拶(理事長、副理事長)	2
霞が関情報(航空局長)、鉄道と観光	3
アメリカこぼれ話、宇宙の旅	4
新年の挨拶、COLUMN(蛇との交歓)	5
城下町と観光(三木城)、NEWSPOT	6
提言(景気回復と観光)、観光立国セミナー	7
気象と天気(花粉情報)、編集後記	8

フォーラムはじめ活動強化へ

顧問陣充実そして会員増強目指す

2013年のJN協会の方針

NPO法人「JAPAN NOW観光情報協会」（大島 慎子理事長）は、今年の活動を次のように充実させていく方針。

(1) 全国各地で開く「観光立国フォーラム」の回数増加を目指して、支部との連携強化を進める。

・3月19日（火）午後6時から、甲府北ロータリークラブ、甲府駅北口まちづくり委員会との共催で、JN協会副理事長の須田寛・JR東海相談役の講演会を開く。演題は「高速鉄道と観光」。

・7月22日（月）には、「日本海事センター」と共催で、「青森の物流と観光の将来に向けて」（案）のテーマで『海事・観光立国フォーラムin青森2013』を開く予定。

・このほか、秋には名古屋市中でフォーラムを予定しているほか、福岡、広島、高松各市で支部と連携し開催を探っていく。

(2) 顧問陣に国土交通省出身者等、観光に関係する実力者を迎え、アドバイザーとして活動の充実、会員の増強に関し助言をいただく。

(3) 毎月開催している「観光立国セミナー」の講師陣の充実と参加者増加を目指す。また大学、各国大使館など開催場所の多様化も図る。

(4) 隔月発行している「JN情報紙」の内容を、より充実させるとともに、ホームページの適宜更新と内容強化を行う。

以上です。会員の皆様のご協力をお願いします。

観光振興に期待！

安倍新政権が地域活性化策で予算計上

安倍内閣は1月11日に発表した緊急経済対策で、観光振興も盛り込んだ地域活性化対策に9,000億円の予算をつけた。その中で「官民協働で地域の魅力を開発・発信し観光地として育てる」としている。

安倍首相は、観光立国を標榜した小泉首相の後を受け、第一次安倍内閣の時、ビジット・ジャパン・キャンペーンのビデオにも登場しており、観光問題に力を注ぐ姿勢がみられる。

民主党政権時代には、ほかに優先課題が山積していたこともあって、観光問題は置き去りにされたような印象もあったが、自民党の振り返りで再び観光振興もクローズアップされた感がある。

観光振興を目指すJN協会、観光関係者としては、安倍内閣の今後を注視したいところだ。

2012年の入国者は917万人

法務省の速報値で、昨年の外国人入国は約917万人と、2011年に比べ28.6%（約204万人）急増した。これは、過去最高だった2010年の約944万人に次ぐ高い水準。

東日本大震災の影響による観光客の落ち込みからの回復をはっきり示している。また、格安航空（LCC）の普及も後押ししたようだ。

ただし、中国からの入国者は尖閣問題で、急激に減っており、回復の兆しは出ていない。

観光客でみると、前年比38.6%増の約755万人となっており、目標の1000万人には遠く及ばなかった。

巳年、明けましておめでとうございます。JN協会からのご挨拶です。

今年を語る

JN協会理事長 大島 慎子

国連が決議した国際観光年（1967年）のスローガンは、「観光は平和へのパスポート」でした。以来半世紀近い年月が過ぎましたが、今年もアルジェリアの事件など激動の幕開けとなりました。震災復興も長引いていますが、あらためて、観光による交流の大切さを訴えていきたいと思います。

JAPAN NOW観光情報協会は国際的な人的交流を柱に国と都市の振興を図る趣旨で設立され10年余になります。地域活性化や、観光立国の啓蒙活動を中心に活動してまいりましたが、本年は更に具体的に産官学や市民が交流する活動をすすめていきたいと計画しております。

今年は、毎月の「観光立国セミナー」を更に幅広い対象者にむけて催行すると同時に、各国の大使館の協力を得て、セミナーを開催していく予定です。

観光はあらゆるものが素材となりますが、当協会では会員の研究テーマの中から「街道観光」を選び地域と地域を結ぶ街道を中心として広範囲な観光素材を掘り起こしていきたいと企画しております。

今年は富士山の世界遺産登録も期待され、またオリンピックの招致が成功するかもしれません。観光をキーワードとして人々を結ぶ情報発信に努めていくため、顧問の方々や会員の方々と意見交換しながら、様々なイベントを企画いたしますので、是非ご協力をお願いいたします。

虚構の国境 JN協会副理事長 横山 善太

明けましておめでとうございます。昨年は領土問題が浮上した年でもありました。考えると身の保全に、忍び寄る不気味な影を見る思いでもありました。そこで、その思いを馳せてみると西独ハンブルグに駐在していた頃の国境の話思い出します。

東西ドイツの分断は住居ごと引き裂かれた事態であり、1980年代でもまだまだその緊張感が残っておりました。ハンブルグを訪れる方々に、よくリュウベックをご案内していたのですが、それはこのハンザ都市としての古都の姿がそのまま現代に伝える名所だからであり、もう一つの見所は、当時の東西ドイツ国境が一望できる場所でもあったからです。

国道が見事に遮断され、Grenze(国境)と表示されていました。その先、東独側は500米巾ぐらいの緩衝地帯が有り、真中に有る監視塔が四六時中見張っている体制にあったのです。そして、西独側の国境沿いには、“Drüben auch Deutschland（向こう側もまたドイツです）”との表示がありました。これは例えば、西独ハンブルグ人が東独ドレスデンに居る親族に思いを寄せる気持ちを促すものなのでしょうか、ほっとする風景でありました。

或る年の瀬、クリスマスの頃、年末の御挨拶廻りでヴォルフス・ブルグに在るフォルクスワーゲン社を訪れた時のことです。

社の人から国境で分断されたチヘリーと云う村が有ると教えられ、連れのドイツ人と一緒に行ってみたところ、村の教会はこちら側、学校は向う側と云う状況に有りました。陽の暮れるのが早いドイツの冬、人気のない国境近くの樅の木は誰が飾り付けたか、クリスマスツリーになっていました。北ドイツのクリスマスツリーは何処でもそうなのですが、白色光だけの飾りで、これは実に見事に清らかで神々しく、静かな佇まいであります。それだけに見上げる私共に与える感動は、印象に残る思い出となりました。何を物語っていたのでしょうか。

それから数年を経て1989年末、ドイツは統合されました。

日本に帰りまして暫くして、一緒だったドイツ人から手紙が有り、写真が添えてありました。チヘリーの村の道路は隔たりなく続き、トラバント（東独の国民車）が走り、国境警備兵の姿はなく、静かな村の風景写真、ベルリン子が自慢だったドイツ人が感動し、“横山さんと訪れたあのチヘリー村が昔に戻ったよ”と伝える手紙だったのです。

振り返れば、人間の浅智慧の虚構だったのでしょうか。今やドイツ分断の歴史も国境も殆ど忘れ去られています。敷衍すれば、韓国38度線も中東ガザ地区も、虚構の果てであったのかと思い起こす時代が来ればと願うものです。

NPOから提案します

景気回復と観光産業

寺前秀一・JN協会理事（加賀市長）

安倍内閣が成立し、景気回復への期待が高まっています。観光産業は一般産業そして民間消費が元気になれば元気になるれません。観光行政マンの陥穽は、お客さんの誘致に頭がいてしまい、お客さんになる者のことを考えないことです。観光産業の発展は、お客さんの消費の拡大にかかっているわけですから、最大の観光行政は、景気回復、消費回復ということでしょう。

安倍内閣になって大型補正予算が取りざたされ、為替レートや株価に影響を及ぼしているようです。口先介入という言葉もあるように、実態とはかい離しているかもしれませんが、景気回復は経済活動の反映ですから、経済活動の主体である経済人の気分によるから当然のことでしょう。

しかしつい先ほど実施された総選挙までは、マスコミ、そしてそれにつられた議会は、東日本大震災復興という名目のもとに間接的に復興に関係するということで他地区において使われている多くの政策予算を袋叩きにしていました。しかし今また、大型

観光立国セミナー

新宿に不況はない？

片山 文彦・花園神社宮司

第83回「観光立国セミナー」の講演者は、JN協会の新宿支部長でもある片山さんが「私と新宿―その歴史と文化―」と題して語った。なかでも、『ムーラン・ルージュ』（新宿にあった大衆劇場）や『四谷花園アパート』に集った文化人、菊田一夫、中原中也、宇野千代などキラ星のごとき人名が次々とでる。片山さんが挙げた人名は故人を含め数十人に上るが、そのうち花園神社で開いている研究会の講師に招いた人はじめ片山さんと交流がある人も多い。故田辺茂一さんとの出会いなど、話題は豊富で勉強になった。

片山さんが生まれた町は淀橋区（今は合併で新宿区）西大久保には、かつて貴族や高級軍人の大邸宅が立ち並んでいたが「いまは貧民窟化しつつある。相続税のためだろう。田園調布も、そうなる」と、税制をちょっぴり批判。最後に「新宿の人通りの多さをみると、新宿には不況がない」と述べたのが、印象的だった。

世界遺産を旅して～その裏側を探る～

第84回は2013年1月11日、講師は近藤節夫JN協会理事で、自身166か所の世界遺産を訪ねている。その経験に基づき、薦めたい遺産をスライドを見せながら、ユーモアも交えて説明。遺産指定を取り消された裏話も面白い。

予告 85回は2月8日（金）正午から、浅野春二・国学院大教授の「台湾に見る道教の祭り」。会費1000円。86回は3月7日（木）、講師は松沢・元神奈川県知事。いずれも、麹町の「海事センター」で。

JN協会主催の観光立国セミナーのこれまでの講演内容は別途、原文のまま印刷物とし、事務局に保存してあります。

補正という名目で同じ品目が顔を出してくるはずです。物理的に消化可能な事業を各省庁が上げてくるはずですから、復興政策と呼ぼうが、景気回復政策と呼ぼうが、環境・エネルギー対策と呼ぼうが、実質的には同じ事業が積算根拠として繰り込まれることは、霞が関で予算作業に携わった経験のあるものには常識となっています。同じものであっても気分次第で景気回復なところが不思議なところですよ。

実質の景気回復は、経済活動、消費活動を活発化させることですから、創意工夫をするチャレンジングな経営者の意欲を掻き立てることが必要です。しかし地域経済の現実、地元企業優先等が叫ばれますから、安定志向になり景気回復を減殺します。

雇用創出の原動力は、サービス産業を中心とした成長産業における独立系企業や外資系企業であるという研究結果があります（『「失われた20年」と日本経済』深尾京司）。温泉観光地も域外資本の効用を真正面から論じなければならないのですが、日本観光研究学会等における若手旅館業研究者の姿勢はそれとはほど遠いものがありますから、観光学会の意識改革から始めないといけないのでしょう。

各地の話題

★ 寺前秀一・加賀市長が出版「観光学博士の市長実践記」

筆者は日本では数少ない観光学博士であり、加賀市長4年目を迎える寺前氏。全国の学生を呼んで行う観光フィールド大学の実践やレディー・カガによるPR作戦など、加賀温泉郷への入り込み客300万人を目指し実践している観光戦略を語り、また宗教文化街道や温泉健康都市としての加賀市並びに近郊の発展の可能性を力説。2800円、AMAZONで注文できる。

★ 東北観光博

ザッパ船アドベンチャーズ

陸中海岸の断崖を海側から眺めるクルーズ。ザッパとは漁師が使う小型の舟で、約1時間、漁師のガイドで楽しめる。年中無休だが、問い合わせで予約することが必要。0194-37-1211。三陸鉄道田野畑駅から徒歩10分。

かまくらまつり

宮城県小野川川崎町での「かまくらまつり」。2月8日から11日まで。雪で作った小屋（かまくら）から蔵王を望めるという。本場の秋田・横手市のそれと同じ規模というのが、売り。問い合わせは、0224-84-5992。

★ 梅の見どころ（一例）

- ・水戸「偕楽園」、3月上旬が見ごろ。
- ・幕山公園（湯河原町、1月下旬から3月にかけて「梅の宴」があり、4000本の紅白の梅花が楽しめる。
- ・東京・湯島天満宮（湯島の白梅で知られる名所）
- ・高崎市蓑郷の「うめまつり」。榛名山の南麓に広がる10万本の白梅が圧巻。2月下旬から3月下旬まで。



枕元にチューリップの花

三木城主、兵と領民の命を救うため自刃
羽柴秀吉の兵糧攻めに遭う

J N協会参与 長宗我部友親

三木城は現在の兵庫県三木市上の丸町のあたりにあった。



室町時代の15世紀の終わりに、別所則治（べっしょ・のりはる）によって築城されたといわれる。その後尼子氏や三好氏らに攻められたが、落城は免れてきた。

しかし則治から四代目の城主、別所長治の時に西に勢力を伸ばしてきた織田信長の毛利攻めに遭う。当初、長治は信長の毛利攻めの先鋒を受け持つことになっていた。だが、加古川の城で行われた軍議に参加した際に、信長から毛利攻めの総大将を任せられていた羽柴秀吉との間にひびが入り、長治は突如信長に反旗を翻す。

このため、秀吉の3万の軍に三木城は取り囲まれる。三木城の勢力はせいぜい2千であった。この時、秀吉は一気に攻めることを避けて、ジワリと兵糧攻めをとる。1年8か月にわたる兵糧攻めで、飢えから籠城した兵士は壁土まで食べたという悲惨な状態になった。

これを見かねた若き城主の長治は、降伏の勧告に來た秀吉の使者に、兵と領民を助けることを条件に開城を承知する。

NEW SPOT

in japan 36

会田誠・新宿城

現代美術の奇才と言われいま最も注目されるアーティストの一人、会田誠初の大規模個展が東京・六本木の森美術館で3月末日まで開催中。社会、政治、歴史、文化などの病理や混沌を鋭く分析し率直なイメージの作品が並ぶ。背広姿サラリーマンの死体を山積みした「灰色の山」、無数の裸の少女たちが攪拌される巨大な「ジュースーミキサー」、美少女の首を鎖でつなぎ四つん這いにした「犬」シリーズなど残虐性にエロスとグロテスクが重なり恐ろしく衝撃的だ。

「新宿城」はホームレスが住みついたダンボールの小さなわが家の情景を「城」に見立てた。ダンボール箱、梱包用の紐、ガムテープ、補強木材で組み立て、初作は1995年で、作品を地下道に置いて誰かが引っ越して来るのを待ったが、たった4日間で清掃員に撤去された。作者は「社

「今はただ 恨みもあらず 諸人の命に代わるわが身と思えば」

時に22歳であった長治の辞世の歌である。

この三木城の戦と城主の別所長治のことを、司馬遼太郎は「チューリップの城主」というタイトルの短編に書いている。

その作品には、長治が自刃した時に城主の枕元に飾られた花について次のように描かれている。

遺体のそばに香った花は、蒲生氏郷が愛した油筒の花挿しの写しというものの、一輪くっきりと活けられ、大輪の花びらは可憐な濃桃色を示し、雄蕊は黒く、一見して百合とも蘭ともつかなかった。

司馬遼太郎は、その花はチューリップではなかったか、としている。

三木城跡は、現在上の丸公園として整備され、公園内には別所長治の石像が建っている。また、二の丸の南側には別所氏ゆかりの雲龍寺があり、長治の首塚がある。

× × ×



ダンボール製の新宿城＝森美術館・会田誠展で

会問題を告発しているようで、実はナンセンスなユーモアが目的の作品」という。今回は美術館で長期展示し、城の中で「日本に潜伏中のビン・ラディンと名乗る男からのビデオ」を上映。

戦争表現を現代視点で再考する「紐 育 空爆之図」やロダン作品のパロディ「考えない人」、東山魁夷の「道」がすぐ思い浮かぶ「あぜ道」、農民が畑でバグを掘り出し今年も豊作じゃ～!!と叫ぶ「ヴィトン」、興味深いアイデア満載の「新宿御苑大改造計画」といった約100作品を絵画、彫刻、ビデオ、造形など手法を駆使し展示する。会期中無休。

(文・写真 林 莊祐)

東 京 霞が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

LCC元年で利用者増、海外旅行者も便利に！

国土交通省航空局長 田村明比古氏



(たむら・あきひこ) 東京都出身。1980年東大法学部卒、4月に運輸省(現国土交通省)入省。富山県庁、アメリカ日本国大使館参事官、観光部旅行振興課長、福岡県などを経て航空局監理部総務課長、鉄道局次長。2012年9月に現職。57歳。

—12年は格安航空会社(LCC)元年といわれていますが、全日空やJAL(日本航空)などへの影響はありますか？

12年3月にピーチ・アビエーション、7月にジェットスター・ジャパンなどのほかにエアアジア・ジャパンなどが就航しました。全日空系のピーチは関西空港—札幌、福岡、長崎が最初で、次いで沖縄に路線を開設しました。さらに海外へは5月から韓国・仁川、7月に香港、10月に台北と「いけいけどんどん」という勢いです。国際線と国内線合わせて11月には乗降客100万人を突破しました。関西—札幌を見ても関西空港からの客は増えています。LCCのために今までの全日空やJALの客が減っている事はありません。今まで航空券が高いということで控えていた人やバスで旅行していた観光客が安いということで飛行機に乗るようになりました。

—この勢いはいつまで続くのでしょうか？

今までの航空券は高いということで、格安な航空券が出てきたことで旅行する人はこれからも増えてくと思います。それでも日本では航空市場の中では3%のシェアしかありません。これは欧州市場の10年前の状態です。現在、欧州市場では30%を越えています。日本でもこの状態になるでしょうね。中期、長期的に見てLCCのシェアは増えてゆくと思います。ある調査によると今まで飛行機は敬遠していた人が安いので乗りたいという人が4割いたという事です。こうした新しい需要層を開拓してゆく、ということでしょうね。

—いいことばかりですが、問題はないのでしょうか？

会社の規模が小さいので一つの機材にトラブルがあると何便も欠航してしまいます。また、オペレーションに慣れていないために飛行機の運航率について大手に比べて改善の余地があります。体制を拡大しお客を定着させてゆく中で解決してゆかなければならないでしょうね。足元を固めながら着実に増やしてゆく必要があります。一番の心配は事故です。急ぎ過ぎないように指導して行きます。

—羽田国際空港への乗り入れは出来ますか？

当座の事を考えると、羽田空港は混雑している。既存の内外の航空会社が増乗り入れを希望しており、

LCCには乗り入れる余地はないと思います。スロットに余裕のある成田国際空港や茨城空港などへの乗り入れが考えられます。

—海外観光客の誘致にLCCは役立っておりますか？

海外路線も積極的に展開しています。海外の旅行者は格安航空会社には抵抗がないので非常に役立っていると思います。日本に航空会社が来やすいように23カ国と地域の間でオープンスカイ協定を結んでいます。一番の直近ではタイと結びました。タイからのお客は増えています。観光立国のための目に見えない努力を私たちはしているつもりです。

(聞き手は、経済ジャーナリスト・阿部和義)

「鉄道」と「観光」⑥

鉄道と観光の歩み—1—(明治時代まで)

JN協会副理事長 須田 寛 (JR東海相談役)

多くの日本人が観光に参加するようになったのは伊勢神宮へ一般の参拝が許された室町時代頃からといわれる。江戸時代には神仏詣で、登山など宗教上の旅行とその途上景勝地温泉等を訪れる庶民の観光が盛んになった。

(明治時代)

観光が幅広く又全国的に普及するのは明治5年に始まる鉄道開通によるところが大きい。徒歩か舟しか交通機関がなかった時代から脱して鉄道は観光の普及に大きい役割を果たした。

日本の鉄道は当初イギリス人の指導で発足したので既に欧米で盛んであった観光を念頭においた施策を初期の頃から展開してきた。鉄道網が全国的にひろがる明治中期には鉄道はさらに積極的に観光に取組むがその先鞭を切ったのは瀬戸内海汽船と競争関係にあった山陽鉄道会社(神戸—下関間)であった。明治33年には寝台車、32年には食堂車連結、35年駅内ホテル開設等を官(国)鉄に先駆けて行った。さらに同社は眺望を妨げるトラス(鉄枠)式の鉄橋の架設も観光客に配慮して行わないという徹底ぶりであった。

国鉄も観光客誘致(当時は遊覧旅行誘致といった)に積極に取り組み明治35年には新橋—京都間に観光回遊列車を運転した事が記録されている。今日の観光列車の嚆矢である。

明治39年から主要幹線の鉄道は国有化され鉄道の観光施策は国鉄を中心に展開されることになる。

当時の国鉄は国際観光にも注力した。明治40年までに朝鮮半島、中国東北地区との間に、さらに明治38年に開通したロシアのシベリア鉄道との間に連絡乗車券(欧亜連絡きっぷ等)発売。国際連絡ダイヤもつくった。世界周遊券なども企画したという。さらに明治45年には日本最初の国際旅行あっせん機関としてジャパンツーリストビューロー(JTBの前身)を国鉄の出捐で設立した。又旅行案内書の出版、時刻表の市販、国の手による国際観光ホテルの整備等、着々と観光推進策が国鉄の手で進められ、都市部で発展してきた民鉄各社も観光客、社寺参詣客等の積極的誘致活動に乗り出すに至った。

「3人の米大統領に会った江戸時代の日本人」 J N協会理事 北村 嵩

堅く国を閉ざして鎖国していた江戸時代には、外国に行くことは禁じられており、吉田松陰のように命がけの行為であった。そんな江戸時代にアメリカの大統領に3度も会った日本人がいる。濱田彦蔵、洗礼名はジョゼフ・ヒコ、通称はアメリカ彦蔵である。彦蔵は1837年、播磨の国加古郡に生まれ、13歳のときに船乗り見習いとして船に乗ったが、その船が難破、漂流し、2ヶ月間後に太平洋上でアメリカの商船に救助された。1852年1月のことであった。

滞在していたサンフランシスコから一度は帰国を試みて香港まで出向いたが、そこで出会った漂流民力松から、モリソン号で帰国を試みたが、幕府の異国船打ち払い令で、船が砲撃されて入国できなかった話を聞き、帰国を断念してアメリカに戻った。サンフランシスコで下宿屋の下働きをしていたが、同地の税関長を務めていたサンダースに認められ、彼に引き取られ、彼の故郷ボルティモアに同行した。そこで学校教育を受け、カトリックの洗礼を受けた。1853年9月にサンダースと共に、時の大統領フランクリン・ピアースに大統領の私邸で面会した。1858年にはサンダースの知人グウィン上院議員に伴われてワシントンを訪れ、ホワイトハウスで、ピアースの次の大統領ジェームス・ブキャナンに会っている。

この年、日米修好通商条約が締結され、日本は開国したが、彦蔵は日本では禁教のキリシタンであり、帰国できないので、帰化してアメリカ国民となった。翌59年、駐日公使・ハリスから、米国の神奈川領事館の通訳に採用され9年ぶりに帰国した。その後、領事館通訳の職を辞し、自ら貿易商館を開いたが、当時は尊皇攘夷思想の蔓延で外国人関係者が狙われる時代であり、彦蔵は身の危険を感じてアメリカに戻った。再び訪れたアメリカは、南北戦争の最中で騒然としており、彦蔵自身も南軍のスパイと間違われ拘禁されたりした。再度、国務長官から正式に神奈川領事館付通訳に任命されたとき、長官の紹介で、時のリンカーン大統領との短い面談が行われ、かくして三代のアメリカ大統領に面談した唯一の日本人となった。通訳を辞めた後、横浜の外人居留地で商売を始め、1864年には英字新聞を日本語訳した、日本初の民間定期刊行の新聞「海外新聞」を発刊し、新聞の父といわれている。

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会
員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、 団体会員(1口5万円)
東京都渋谷区代々木1－58－13小田急代々木ビル3階
JAPAN NOW観光情報協会(電話03－5304－9500)

宇宙の旅

小田急電鉄(株) 顧問 利光 國夫

私が高校生の頃「地学」という授業課目があった。今もあるかどうかは知らないが、この課目の対象は地球物理学のようなものが中心だったと記憶している。

アインシュタインの相対性理論を教わったのも確かこの授業に於いてだったと思う。半世紀以上も前のことなので記憶が定かではないが、当時は未だハイゼンベルグの量子力学などは教わらなかったような気がする。本当かどうか知らないが発表された当時、相対性理論を真に理解できる人は世界中で数人しか居ないだろうと云われたそうだが、それが事実だとしたら物理学が今日のように発展する筈はないから、アインシュタインの天才を強調するための伝説なのだろう。私などは勿論こんな天才的理論を理解できる頭脳を持ち合わせていないが、興味だけは人一倍である。「地学」の授業で先生が宇宙空間は無限ではなく有限であると言われた時は驚愕してそれなら外側は何がどうなっているのかとしつこく訊いたので先生が辟易したのを今も覚えている。

この数十年の宇宙物理学の進歩は目覚しいもので、英国の天才的物理学者ホーキングの著書などは世界各国で翻訳出版されており、私のような門外漢でも読み物として楽しめるようになった。時間と空間は一定ではなく、いかなる運動体も光の速度を超えることは出来ないというのが相対性理論の中核であると私なりに解釈しているが、最近のブラックホール理論や多次元宇宙論に接すると相対性理論といえども絶対の真理とは云えないのではないかという思いが湧いてくる。

遙か遠い将来、今はS Fの中にしか存在しない太陽系を越える宇宙の旅が必ず実現すると私は信じている。人類が自ら絶滅する途を辿らなければ・・・

丹羽・前中国大使らが講演

日本海事センターは、2月15日(金)「海事立国フォーラムin東京2013」を平河町海運ビル・国際ホールで開く。

基調講演は、森雅人・国土交通省海上局長の「海洋立国日本 明日へのチャレンジ」。ついで、丹羽宇一郎・前中国大使が「中国経済と日中関係の今後」について、伊丹敏之・一橋大名誉教授が「日本の産業と日中関係」を語る。

開会は午後2時30分、閉会后懇親パーティーもある。参加費は無料だが、2月7日までにFAX03—3264—5565へ会社名、氏名などを、事前登録する必要がある。

問い合わせは、03-3263-9421（飯塚、畦地まで）

会員の投稿を歓迎します～情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2013年03月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。発行は2013年03月25日、投稿締め切りは、03月15日です。

巳年、明けましておめでとうございます。JN協会からのご挨拶です。

連携による観光イベントの取り組み

J N協会北陸支部長 魚住隆影

北陸新幹線金沢開業まで2年となる新年を迎えました。新交流時代への当地の期待は大きく、観光客の増加に向け機運が盛り上がってきている。観光資源のブラッシュアップ、おもてなしの向上、食・文化・工芸等の魅力度の発信など、各方面の意気込みが感じられる。

一方、北陸について首都圏での認知度が今一つであることから、官民あげていろんなチャンネルを通じ、PR活動を進めている状況にある。交通事業者としても積極的に誘客活動をしていきたいと考えている。

地方の交通会社であるが、単なる輸送から脱皮し新しい切口での事業展開にチャレンジしてきた。観光ポスターの掲示を皮切りに交通事業者間の絆を深め、県観光連盟、経済団体をも巻き込むまでに進化してきた。

交通事業者は、地域ではそれなりの信頼と存在感を持合わせ、関連施設やエージェントや広告媒体を有している。その力を活用する企画・発想を持ち込み、効果的な仕掛けを模索している。情報の送り手側も、それぞれの組織の潜在力を出し合い連携すれば、一味異なるイベントが実施できるだろう。工夫を練る取り組みには満足はないが、観光の奥は深い。

C O L U M N

「蛇」との交歓

今年の干支は「蛇」である。どうして干支の中に「蛇」のような、手足がなく胴体をくねくねさせて地面を這う薄気味悪い爬虫類が十二支に加えられたのだろうか。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教では元来「蛇」は悪魔とされている。生息する3千種もの「蛇」のうち、約25%は有毒と言われ、かなり嫌われ恐れられてもいる。だが、「蛇」は南極以外のどの大陸にも棲み、海中にも生息し、寒さには地中に竄って越冬する智慧のある、生命力の強い動物でもある。

一般的に「蛇」については、「竜頭蛇尾」「蛇の生殺し」「蛇足」のように、あまり良い意味では使われない。しかし、その一方でこれほど人間に崇拝され、信仰対象とされ、畏怖されている生物も少ないようだ。わが国では古来「蛇」は神の使いだったとされていて、しばしば古文書にも登場する。脱皮を繰り返すため「不老長寿」の象徴と看做され、ネズミなどの害獣を主食とすることから「大地母神」とも崇められている。

子どものころ疎開先の裏山で、ヤマカガシを挟みつかんで振り回し、母親や近所の女の子らに気味悪がられた。家の天井からアオダイショウがぶら下がり、母親が気持ち悪がっていたのを冷やかしたこともあった。中学生の時可愛がって飼っていたメジロの鳥籠に入り込んだアオダイショウが、メジロをひと呑みにして、腹が膨れて鳥籠から出られなくなったのを、これぞメジロの敵討ちとばかりに熱湯を浴びせて暴れまわったのをやっつけたことがある。

社会人になってからも時折「蛇」との対峙が復活し、実際に旅行会社の添乗員として東南アジアへ出かけ、見世物の「蛇」に出くわした時など、「肝試し」的に同行者の中で最初に「蛇」と触れることを求められて往生したことが再三ある。これも子どものころに「蛇」を苛めた罰当たりなのかと思いつつ、あまりいい気分ではないままに「蛇」と交歓?した。巳年の今年こそは、罰としてではなく、「蛇」が持っている「永遠」「生命力」「智慧」にあやかりたいものである。



蛇と戯れる?筆者

(近藤節夫)